

## 放課後等デイサービス自己評価表

社会福祉法人たんぽぽ会  
こども生活館おひさま

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			
	② 職員の配置数は適切であるか	○			少し多めに配置をしてある。
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		ワンフロアで場面展開が仕切りででき、視覚的にも意識しやすいよう工夫を行っている。玄関の上がり框がやや高いため一段、段を付けるなどの工夫を行っている。
業務改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			目標の設定、取り組み、振り返りを行い次へ活かしていくことを職員一人ひとりが意識してる。
	⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			定期的にアンケートを実施し職員がニーズを把握し、すぐに対応できるように取り組んでいる。
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか			○	今回初めて公表を行う。
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	今後行っていく予定である。
	⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			外部研修や法人内研修への参加、事業所内でも研修会を開催している。
適切な支援の提供	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			ニーズと客観的評価を照らし合わせながら計画を作成している。
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			使用している。
	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			チームで話し合い、様々な視点から検討を重ね立案を行っている。
	⑫ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			見通しを立てやすいようある程度の流れが把握できるようになったら発達に合わせて少しずつ変化を加えている。中心活動も段階的に新しい活動を取り入れている。
	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			普段と違う状況を設定することで、たくさんのが経験できるようにしている。開校時にはできない食事や更衣、排泄など日常生活動作の場面の支援にも取り組んでいる。
	⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			集団活動のなかでも職員のチームワークで個別的に支援できるように計画を立てている。
	⑮ 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			職員は事前に必ず打ち合わせを行い、役割分担を行っている。個別対応の職員も決めねらい（目標）に応じた支援を行っている。
	⑯ 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			リーダーがそれぞれの職員から聞き取りを行い記録に残し次につなげている。

適切な支援の提供	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		その日の中心活動に対するねらいに合わせたアプローチ、それに対する反応を記載し、利用児と職員のアプローチのどちらも振り返ることができるようにしている。基本的日常動作、コミュニケーション面など各領域についても記載している。
	⑱	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○		行っている
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	○		事業所が提案する活動を行う場面と、こども同士で決めて楽しく過ごす場面、リラクゼーションの時間なども取り入れている。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		子どもの状況をよく把握している管理者やサービス管理責任者等が参加している。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○		保護者とのやりとりや必要な時は担任教諭に直接伺うなどしながら状況の把握に努めている。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○	現在、いらっしゃらないが必要な場合は連絡体制を整える用意はある。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○		直接情報を頂くこともあるが、保護者を通して教えて頂くこともある。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○		行っている。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		こども総合療育センターや行政(県・市・保健所)が行う研修に参加している。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○	積極的に機会は設けていないが公園など自然な形で地域の子どもたちと遊ぶ機会はある。
	㉗	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか			○ 対象外
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		送迎時のやりとりや面談、連絡帳で状況を伝えあっている。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○		保護者会の際に勉強会を行っている。センターおひさまが主催するペアレントプログラムへも参加できるような体制を整えている。
保護者への説明責任等	⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		主に契約時に行っている。
	㉑	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		いつでも相談に来て頂けるようお伝えしており、安心感を持って頂けるように努めている。
	㉒	父母の会活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		家族会を年に2回実施しており、事業所と保護者のやりとりだけではなく保護者の交流の懇談の時間を作っている。
	㉓	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		苦情についての体制は整備しており、周知し、資料を手渡し、掲示もしている。要望や相談に対してはすぐに対応をしている。

保護者への説明責任等	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		毎月おたよりを発行している。
	③⑤	個人情報に十分注意しているか	○		十分に注意している。
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		言葉だけではなく、それぞれに合った方法で対応できるよう心掛けている。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		法人全体としては、地域住民を招待する行事を実施し開かれた事業運営を図っている。事業所単独としては、個人情報への配慮を考え、事業所の行事に積極的に参加を促していない。今後在りようを検討していく。
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○		職員は周知している。保護者にはマニュアルがあることを伝え、掲示もして周知に努めている。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		年に2回の消防立ち合い訓練の他に地震、風水害、防犯などの訓練を行っている。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		定期的に研修を実施するなど適切な対応をしている。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○		身体拘束廃止・虐待防止・権利擁護は法人全体の研修を十分に行い、未然防止の共通認識を図っている。身体拘束に相当する行為は、非代替性で生命に関わる場合以外で行うことは想定していないが、未だ事例が無い。仮に拘束が必要と思われる場合は事前に保護者に説明し、了解を得たうえで行うことになると考えている。現在はサービス計画への記載を必要とする利用児がいらないため記載には至っていない。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		保護者に確認を行い、アレルギーがある場合は医師からの指示書を頂いている。現在、おひさまで食事を摂取される方に対象者はいない。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		共有し、検証や話し合いを行っている。